



氏名 吉山 昌宏 (よしやま まさひろ) 1957年生
所属 大学院医歯学総合研究科・教授
Tel 086-235-6670 (ダイヤルイン)
Fax 086-235-6674
E-mail yoshiyam@md.okayama-u.ac.jp
HP <http://www.dent.okayama-u.ac.jp/1hozon/prof/index.html>

ひとこと:「5年後の歯科医療に役立つ研究」のコンセプトで、象牙質病態のミクロレベルでの観察・研究とその治療法の開発を進めております。

最近、虫歯に侵された象牙質の細菌を接着剤で封じ込め、象牙質を再生しようとするモディファイド・シールドレストレーション(特許出願中)の確立に注力しています。

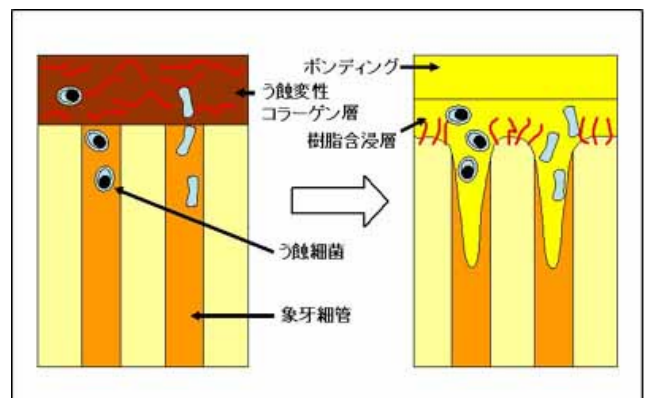
1. 象牙質の修復ならびに再生

虫歯に侵された象牙質を修復し、更には再生させることを目的として、種々の接着性レジン象牙質接着性機能をミクロレベルでの観察ならびに最新の表面分析手法を用いて解析し、新しい保存修復手法を構築しています。

2. 象牙質知覚過敏症の治療法の開発

超高齢化社会に突入した我が国において、高齢者を中心に多発している象牙質知覚過敏症や根面う蝕の新しい治療法の開発を進めるとともに、歯の硬組織再生を実現すべく、種々の再生療法の開発検討を進めています。

[モディファイド・シールドレストレーション (MSR) 法]

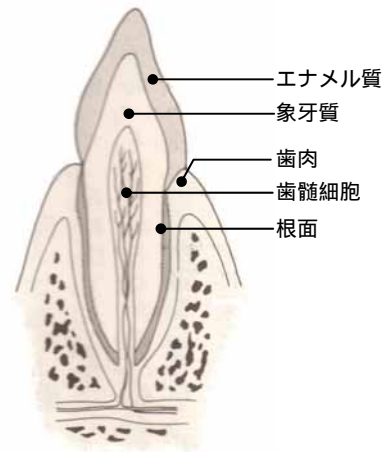


キーワード：象牙質、根面う蝕、接着性レジン、知覚過敏症

モディファイド・シールドレストレーション(MSR)

キーワード用語集（吉山昌宏先生）

象牙質・・・歯は表面の最も硬いエナメル質、その下に象牙質、その中心部に知覚神経を含んだ歯髄細胞より構成されている。



根面う蝕・・・高齢者では歯ぐきに近い根面の象牙質が、侵食されたり虫歯に侵されることが多い。

接着性レジン・根面う蝕の治療で、う蝕部を封じ込める材料として、象牙質との接着性が強い高分子モノマーが用いられる。抗菌性のものも開発されている。

知覚過敏症・・・歯の表面が侵食されることにより、中心部の知覚神経が高温・低温に異常に反応する症状。

モディファイ・シールドレストレーション(MSR)
根面う蝕に対する新しい保存修復方法で、象牙質の再生能力を活かし、接着性レジンで封じ込める治療法。